

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①国際協力を学習する前提として、日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。 ②国際社会、とりわけ発展途上国における政治的・社会的・文化的対立の構造を理解し、その解決のための行動のあり方を考察し、また実践することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。
	【主体性・多様性・協働性】	⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際協力・支援活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性とそのための実践力を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)	
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
	基礎英語1	1	1	高校までに学んできた英語の語彙・文法等の知識を確認・定着させ、大学における学びの基礎となる英語運用能力を身につけるとともに、各種検定への対応を視野に入れた指導を行う。			◎				△		○
	基礎英語2	1	1	「基礎英語1」で学んだ内容をベースに、英語の語彙・文法等の知識を拡充させ、大学における学びの基礎となる英語運用能力を身につけるとともに、各種検定への対応を視野に入れた指導を行う。			◎				△		○
	英語表現1	1	1	英語での日常的なやり取りに必要な表現と方略を身につけることに加え、ある課題に対しての自身の意見を口頭および文書で発表する練習を通し、英語を用いての発信力を身につける。			◎	○			△		◎
	英語表現2	1	1	英語での日常的なやり取りに必要な表現と方略を充実させるとともに、プレゼンテーションやディスカッションなどの発展的な活動の練習を通し、英語を用いての発信力を伸ばす。			◎	○			△		◎
	英語演習A (英語で学ぶ日本の文化)		1	海外の文化と比較しながら英語を用いて日本の文化について学び、自らの文化を客観的に理解するとともに、その内容を英語で発信する力を身につけ、異文化理解や異文化間交流の礎を築く。	○		◎					○	◎
	英語演習B (英語で学ぶ世界の文化)		1	世界の諸文化の中からいくつかを取り上げ、それらを英語の資料を用いて理解することで、国際理解のための英語力を高めるとともに、文化の多様性を受け入れる素地を養う。	○		◎					○	◎
	英語演習C (英語で学ぶ異文化理解)		1	英語の資料を用いて、異文化理解の必要性、世界に見られる異文化間摩擦、身近な異文化理解などについて理解・考察する機会を与え、多文化共生社会に生きる上での豊かな許容性を育む。	○		◎			○	△		◎
	英語演習D (英語で学ぶ時事問題)		1	様々なメディアが発信する記事等の読解およびそれらについての議論を通し、世界で起こっている様々な時事問題について理解し議論するために必要な英語力を養う。	○		◎	○					◎
	英語演習E (英語で学ぶSDGs)		1	各種資料の読解や議論などを通し、国連「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された持続可能な開発目標についての理解を深め、持続可能な社会づくりに関わるための英語力を養う。	○		◎	○			△		◎
	英語演習F (英語で学ぶ環境・エネルギー問題)		1	これまで人間が工業化の進展・化石燃料の大量消費などにより環境に大きな負荷をかけてきたことを省みながら、環境・エネルギーに関する諸課題について英語を用いて理解・議論する力を養う。	○	○	◎						◎
	英語演習G (英語で学ぶ健康と食糧)		1	世界保健機構(WHO)や世界食糧計画(WFP)、その他国際NGOなどの資料を基に、世界の健康・食糧事情を理解するとともに、課題解決に向けた提案を英語で行う力を養う。	○	△	◎	○					◎
	英語演習H (英語で学ぶ国際連合)		1	国際連合のさまざまな役割や組織について学ぶとともに、具体的な活動に触れながら、国際連合についての理解を深める。あわせて、国連英検C級以上の取得を目指す。	○	△	◎	○					◎
	英語演習I (英語で学ぶ差別問題)		1	人種・性・宗教・障がいなどにより生じているさまざまな差別の問題について、各種資料の読解を通して理解を深めるとともに、その解決・改善に向けた提案を英語で行う力を養う。			○	◎			○		◎
	英語演習J (英語で学ぶ平和)		1	多様な資料を通し、平和を希求する人々や組織の活動、あるいは平和を妨げる様々な要因についての理解を深め、平和な世界の実現に向けて私たちが取るべき手段について考察する。	○	○	◎						◎
	英語演習K (英語で学ぶ世界遺産)		1	主な世界遺産の成り立ちや、ユネスコを中心とする世界遺産保護活動の実際、世界遺産が抱える諸課題などについて資料を用いて理解するとともに、課題解決に向けた考察を行う。	○		◎	○					◎
	英語演習L (英語で学ぶ教育問題)		1	世界における教育の現状を把握したうえで、世界中の人々が質の高い教育を受けられるようにするためにはどうすべきかを、さまざまな資料の理解および考察を通して議論する力を養う。			◎	○			○		◎
	入門ドイツ語1		1	「基礎ドイツ語」とならんで、ドイツ語を読み書き話すために欠くことのできない基本的な文法知識を学ぶ。また学習を通して、ものごとを正確かつ精密に考える力を養う。	○	○	◎			○	△		◎
	入門ドイツ語2		1	入門ドイツ語1を継続し、過去や未来の表現、受動態、関係代名詞など、さらに進んだ文法知識を習得する。	○	○	◎			○	△		◎
	基礎ドイツ語1		1	「入門ドイツ語」で学ぶ基本的な文法知識を反復練習しつつ、会話を中心としたドイツ語表現力を身につける。また言葉を通じた異文化との出会いを体験していく。	○	○	◎			○	△		◎
	基礎ドイツ語2		1	「基礎ドイツ語1」を継続し、さらに進んだ表現形式を学びながら、異文化理解を深めていく。	○	○	◎			○	△		◎

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①国際協力を学習する前提として、日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。 ②国際社会、とりわけ発展途上国における政治的・社会的・文化的対立の構造を理解し、その解決のための行動のあり方を考察し、また実践することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。
	【主体性・多様性・協働性】	⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際協力・支援活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性とそのための実践力を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)	
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
	発展ドイツ語1		1	2	「応用ドイツ語」とならんで、一年次で学んだ基礎知識を確認しながら、ドイツ語によるコミュニケーション能力に磨きをかける。あわせて、ドイツ文化の特性も理解していく。	○	○	◎		○	△		◎
	発展ドイツ語2		1	2	「発展ドイツ語1」を継続し、ドイツの社会や文化への関心を深めていく。	○	○	◎		○	△		◎
	応用ドイツ語1		1	2	「発展ドイツ語」とならんで、初等文法を終えたことを前提に、日常会話に不可欠な表現を確認しながら、さらに進んだ応用力を身につける。あわせて、ドイツ文化への理解も深めていく。	○	○	◎		○	△		◎
	応用ドイツ語2		1	2	「応用ドイツ語1」を継続し、ドイツ語表現の応用に磨きをかけていく。	○	○	◎		○	△		◎
	ドイツ語で学ぶドイツ文化		2	3	ドイツ語既習者を前提に、ドイツ語で書かれたテキストを読みながら、読解力を養いつつ、ドイツ文化への理解を深めていく。	○	○	◎		○	△		◎
	ドイツ語で学ぶドイツ事情		2	3	ドイツ語既習者を前提に、ドイツ語で書かれたテキストを読みながら、ヨーロッパの中心に位置するドイツの歴史を含め、現代ドイツの様々な事情を学ぶ。	○	○	◎		○	△		◎
	入門フランス語1		1	1	英語全盛の時代であるが、国際機関における公用語として第二の勢力を維持し続けるフランス語に触れておく意義は大きい。本科ではフランス語の基礎を、綴りの発音から徹底的に学ぶ。			◎	○	◎	○		
	入門フランス語2		1	1	「基礎フランス語1」に続く科目である。本科では特に動詞の活用に力を入れたい。フランス語の動詞活用の難しさは定評があるが、これを越えなければフランス語習得は叶わない。			◎	○	◎	○		
	基礎フランス語1		1	1	「入門フランス語」と組みになって、1年次終了時に実用フランス語技能検定試験5級程度(学習50時間以上)の実力をつけたい。入門で学んだ基礎知識をさらに定着させ応用する。			◎	○	◎	○		

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①国際協力を学習する前提として、日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。 ②国際社会、とりわけ発展途上国における政治的・社会的・文化的対立の構造を理解し、その解決のための行動のあり方を考察し、また実践することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。
	【主体性・多様性・協働性】	⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際協力・支援活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性とそのための実践力を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL (*2)		
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
学部 共通 科目	基礎フランス語2		1	1	「基礎フランス語1」に続く科目である。フランス語検定試験5級の実力をめざし、知識に磨きをかける。			◎	○	◎	○			
	発展フランス語1		1	2	本授業は2年次のフランス語科目である。基本的文法事項の知識を完全なものとする。2年次終了時点でフランス語検定試験4級、さらには同3級の実力獲得を目指す。			◎	○	◎	○			
	発展フランス語2		1	2	本授業は「発展フランス語1」に続く科目である。引き続きフランス語検定試験4級の実力達成を目標とする。			◎	○	◎	○			
	応用フランス語1		1	2	本授業では、「発展フランス語」と組みになって、読解、作文、会話など、総合的なフランス語運用能力を身につける。目標はやはり、フランス語検定試験3・4級の実力獲得である。			◎	○	◎	○			
	応用フランス語2		1	2	本授業は「応用フランス語1」に続く科目である。フランス語の理解力(読む、聞く)だけでなく、自ら使いこなす力(書く、話す)の基礎を固めてゆく。			◎	○	◎	○			
	フランス語で学ぶフランス文化		2	3	本授業は、2年次までのフランス語学習を終えてさらにフランスに関する知識を深めたい者のための科目である。実力的には、実用フランス語技能検定試験3級レベルを目指す。	○		◎	○	◎	○			
	フランス語で学ぶフランス事情		2	3	本授業も「フランス語で学ぶフランス文化1」と同趣旨の科目である。フランス語を通して、フランスについてより幅広い教養を身につける。並んで、フランス語能力のより一層の向上も目指す。	○		◎	○	◎	○			
	入門スペイン語1		1	1	本授業はスペイン語の基礎を習得するクラスであり、スペイン語の発音に慣れ、基本的な挨拶表現と現在時制を用いた自己表現ができるようになることを目的とする。			◎	○	◎	○			
	入門スペイン語2		1	1	本授業は、「入門スペイン語1」に続き、スペイン語の基礎を習得するクラスであり、スペイン語の発音に慣れ、現在時制を用いた基本的な自己表現ができるようになることを目的とする。			◎	○	◎	○			
	基礎スペイン語1		1	1	入門スペイン語と組みになって、1年次終了時にスペイン語検定試験6級程度の実力をつけることを目標とする。入門で学んだ基礎知識をさらに定着させ応用する。			◎	○	◎	○			
	基礎スペイン語2		1	1	「基礎スペイン語1」に続く科目である。スペイン語検定試験6級の実力をめざし、知識に磨きをかける。			◎	○	◎	○			
	発展スペイン語1		1	2	本授業では、基本的文法事項の習得を前提として、より高度なスペイン語に接してゆく。応用スペイン語と組みになって、2年次終了時にはスペイン語検定試験5級の実力に達したい。			◎	○	◎	○			
	発展スペイン語2		1	2	本授業は「発展スペイン語1」に続く科目である。引き続き、スペイン語検定試験5級の実力達成を目指す。			◎	○	◎	○			
	応用スペイン語1		1	2	本科目では、1年次に習った基礎知識をさらに発展させ、使いこなせるようにする。「発展スペイン語」と組みになって、スペイン語検定試験5級の実力達成を目指す。			◎	○	◎	○			
	応用スペイン語2		1	2	本授業は「応用スペイン語1」に続く科目である。スペイン語の理解力(読む、聞く)だけでなく、自ら使いこなす力(書く、話す)の基礎を固めてゆく。			◎	○	◎	○			
	スペイン語で学ぶスペイン文化		2	3	本授業は、2年次までのスペイン語学習を終えてさらに上を目指したい者のための科目である。語学力の向上に加え、スペイン文化についても教養を深める。	○		◎	○	◎	○			
	スペイン語で学ぶスペイン事情		2	3	本授業では、視聴覚教材なども用い、現代スペイン事情を通して、しっかりした基本的なスペイン語能力にさらに磨きをかける、あわせ、スペインをめぐる国際問題についても考えたい。	○		◎	○	◎	○			
	入門中国語1		1	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるため、発音・文字表記・基礎的な語彙・基礎的な文型や日常よく使う文句、などを学習し、最低限のコミュニケーション能力の習得を目標とする。	△		◎						
	入門中国語2		1	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるため、発音・文字表記・基礎的な語彙・基礎的な文型や日常よく使う文句、などを学習し、最低限のコミュニケーション能力の習得を目標とする。	△		◎						
	基礎中国語1		1	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるため、発音・文字表記・基礎的な語彙・基礎的な文型や日常よく使う文句、などを学習し、最低限のコミュニケーション能力の習得を目標とする。	△		◎						

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①国際協力を学習する前提として、日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。 ②国際社会、とりわけ発展途上国における政治的・社会的・文化的対立の構造を理解し、その解決のための行動のあり方を考察し、また実践することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。
	【主体性・多様性・協働性】	⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際協力・支援活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性とそのための実践力を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)			
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦				
	基礎中国語2		1	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるため、発音・文字表記・基礎的な語彙・基礎的な文型や日常よく使う文句、などを学習し、最低限のコミュニケーション能力の習得を目標とする。	△		◎							
	発展中国語1		1	2	言語の基本四技能を更に伸ばすとともに、中国語を使用する可能性の有る様々な機会(日常的会話、接客、その他)に対応できる力を付ける。「応用中国語1」と異なる教材を使うことで、多様な場面設定で学習する。	△		◎							
	発展中国語2		1	2	第2外国語としての中級レベルの実力を総合的に伸ばす。会話文を聞いたり理解する力を伸ばすとともに、基本的な文を作る力や話す力を養成する。「応用中国語2」と異なる教材を使うことで、語彙や解釈力の幅を広げる。	△		◎							
	応用中国語1		1	2	言語の基本四技能を更に伸ばすとともに、中国語を使用する可能性の有る様々な機会(日常的会話、接客、その他)に対応できる力を付ける。「発展中国語1」と異なる教材を使うことで、多様な場面設定で学習する。	△		◎							
	応用中国語2		1	2	第2外国語としての中級レベルの実力を総合的に伸ばす。会話文を聞いたり理解する力を伸ばすとともに、基本的な文を作る力や話す力を養成する。「発展中国語2」と異なる教材を使うことで、語彙や解釈力の幅を広げる。	△		◎							
	おもてなし中国語		2	3	日本における各シチュエーション(空港・駅、ホテル・旅館、デパート・コンビニなど各種商店、観光地、医療機関などで、中国語圏からの訪日客をもてなすことに特化した、中国語の語彙や表現を身に付ける。	△		◎							
	実践中国語		2	3	様々な機会に実践的に使える中国語力を養う。1、2年次の基礎の上に立って、広い場面における相手の発話を聞いて理解し、実際の応答ができることを目指す。また、書かれたものを理解し和訳できる力を伸ばす。	△		◎	△						
	コミュニケーション中国語1		2	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるのと並行して、相手について尋ね、自分について話す、というコミュニケーション力の向上を重視する。そのために、口頭練習を多く取り入れる。	△		◎							△
	コミュニケーション中国語2		2	1	中国語の4つの方面(聞く・話す・読む・書く)の基礎を身に付けるのと並行して、相手について尋ね、自分について話す、というコミュニケーション力の向上を重視する。そのために、口頭練習を多く取り入れる。	△		◎							△

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①国際協力を学習する前提として、日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会、とりわけ発展途上国における政治的・社会的・文化的対立の構造を理解し、その解決のための行動のあり方を考察し、また実践することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。 ⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際協力・支援活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性とそのための実践力を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)					
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦						
	映画で見る中国語		2	2	中国語字幕の映画を中国語音声聞きながら見ることにより、どのような場面でどのような表現が使われるかを知り、音声面でも理解できるようにする。またよく使われる語彙や表現については、和訳できるようにする。			△		◎							
	生活中国語		2	2	グローバル化した世界において実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力の重要性が増す中、生活において使う中国語を学び、実際にそれを使いこなせるようになることを目指す。			△		◎							
	日常中国語		2	2	グローバル化した世界において実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力の重要性が増す中、ふだんよく使う中国語を学び、実際にそれを使いこなせるようになることを目指す。			△		◎							
	中国語の検定にチャレンジ		2	3	中国語の検定試験に対応できる力を付ける。各検定試験で要求される語彙・文型等の範囲に対して、これまでの学習で不足の部分を補いながら学習し、また、実際に出題された問題を解くことで、問題対応力を養成する。					◎							
	韓国語1		2	1	ハングルの創製原理と歴史を考察し、韓国語の言語的特徴と構造を日本語と比較しながら学習する。		○	○	◎			○	△			◎	
	韓国語2		2	1	発音規則に沿った文章の読み方と綴り方の練習と、助詞の使い方や用言の語尾活用の基礎、さらに叙法や待遇法などの基礎文法を学習する。		○	○	◎			○	△			◎	
	フィリピン語と日常世界1		2	1	フィリピンは日本に最も近い東南アジアの国である。日本で暮らす外国人のうち、4番目に数が多い。身近なフィリピンの国語・フィリピン語を学ぶ。フィリピンの概要、言語事情に関して、2回授業を行い、フィリピン語の位置づけを理解してもらった後、言葉の学習に入る。教科書を使用し、初級程度の語学力を習得させる。				△	△		△				△	
	フィリピン語と日常世界2		2	2	フィリピンは日本に最も近い東南アジアの国である。日本で暮らす外国人のうち、4番目に数が多いのがフィリピン人である。このように身近なフィリピンの国語・フィリピン語を学ぶ。フィリピン語と日常世界1を履修したものを対象とする。言葉の学習に入る。教科書を使用し、中級程度の語学力を習得させる。		○		○						○		
	基礎インドネシア語		2	1	マレー社会(東南アジア島嶼部)の交易語であったインドネシア語は、時制の変化や格(主格・所有格・目的格)の区別がないなど、文法が比較的簡単であり、アルファベット表記、発音のしやすさなど、短期間でマスターしやすい言語である。基礎的な文法を学び、旅行でつかえるインドネシア語を身につける。					◎					○	◎	
	検定インドネシア語		2	2	インドネシアに進出する愛知県の企業は約200社、愛知県で暮らすインドネシア人は約5500人。「基礎インドネシア語」で習得したインドネシア語を活かせる場は少なくない。単にインドネシア語を習得するだけではなく、インドネシア語技能検定試験(仕事でつかえるレベルはC級)に合格して、将来のキャリアにつなげたい。						◎				○	◎	
	ことばと音声		2	2	日本語や外国語など様々な言語の音声を、聴き、発音し、音声記号で書き、音声記号を再生したり、自分や人の声を音声分析ソフトで表示し、聴覚的な違いが視覚的にどう見えるか、実習を通して言語音声について理解する。		○			◎		△	△			△	
	コンピュータ技法1		2	2	WordとExcelについて、在学中の学習や卒業論文作成に役立つ、社会で要求される技能や関連の知識を身に付ける。また当学部のグローバルな学習内容に対応できるよう、Windows上での各言語の入力方法や文字表示についても学習する。					○							
	コンピュータ技法2		2	2	PowerPointを使ったプレゼンテーションの作成と実習を行うが、まとめ方や提示方法・効果的な表現方法等についての知識を習得する。併せて、情報を収集して使用する際に必要な著作権や情報倫理についても知識を深める。					○							
	TOEIC英語基礎1		1	1	英語の基礎的な語彙・文法等の知識を再確認しながら、社会人の英語力評価に多く用いられるTOEICの問題に対応するための英語基礎力を身につける。					◎						○	
	TOEIC英語基礎2		1	1	TOEICでの500点の取得を目標として、実際の出題形式に即した教材を用い、各パートの問題の特徴をつかみながら、総合的な英語基礎力を身につける。					◎							○
	TOEIC英語実践1		1	2	すでにTOEIC500点程度の英語力を持つ学生を主な対象とし、実際の出題形式に即した教材を用い、各パートの問題に対応できる総合的な英語基礎力を身につける。					◎							○
	TOEIC英語実践2		1	2	すでにTOEIC500点程度の英語力を持つ学生を主な対象とし、TOEICでの700点の取得を目標として、問題演習を通して各パートの問題に対応できる総合的な英語基礎力を身につける。					◎							○
	日本語教授法1		2	2	日本語の音声を、聴き、発音し、さらに各技法を習得することで、日本語の言語特性について理解する。また、そのような指導法を的確に実践できるように実習を通して習得することができる。				○	○	○	◎				△	

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①国際協力を学習する前提として、日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会、とりわけ発展途上国における政治的・社会的・文化的対立の構造を理解し、その解決のための行動のあり方を考察し、また実践することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。
		⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際協力・支援活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性とそのための実践力を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL(*2)		
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
	日本語教授法2		2	2	教授法1で学習した内容をさらに高度に実践できるように「読む・聞く・書く・話す」ための技術を高め、日本語の初学者指導に対応する技法を学ぶことができる。			○	○	○	◎			△
	国際文化論		2	1	グローバル時代の国際文化の概念とあり方を考察するとともに、具体的な事例を紹介しつつ、文化の国際性という問題に言及する。諸地域・諸国の文化的特質を論じ、国際的な文化への理解を深める。	◎	○		○	○				
	キリスト教文化論1		2	2	人類の歴史で、音楽と宗教は密接な関係にある。聖書の内容を伝えるために、音楽がどのように用いられてきたか、教会音楽の役割や機能について学ぶ。	◎				△			○	
	キリスト教文化論2		2	2	キリスト教芸術の絵画に表された主題や図像について、聖書から学び、作品表現の様式的な変化を生じさせた西洋文化の思想背景や、その歴史的要因について学ぶ。	◎				△			○	
	宗教人類学		2	1	世界各地のケガレ観念・シャーマニズム・葬送など宗教的実践を事例にとりあげ、人類が自分たちが生きている世界をどのように想像しそれに働きかけるかを理解する。	○	△			○				
	グローバル社会文化論		2	1	文化は本来的に境界を超えることでその国際性を保持し、国境や民族や宗教を超えてグローバルな文化世界を形成してきた。現代社会の文化交流と文化変容、そして文化創造の在り方を学ぶ。	◎	◎		○	◎	◎		△	

2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①国際協力を学習する前提として、日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会、とりわけ発展途上国における政治的・社会的・文化的対立の構造を理解し、その解決のための行動のあり方を考察し、また実践することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。 ⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際協力・支援活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性とそのための実践力を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL (*2)		
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
	日本対外関係史		2	1	古代から現代にかけての日本の歴史と文化が、周辺アジア諸国・諸地域および世界の諸国・諸地域との関わりのなかで形成されてきたことを理解し、その関係性を尊重する精神を培う。	◎				○	○	◎		△
	日本文化論		2	1	日本の文化について、その成立や歴史的な背景、国内の地域文化の比較、外国人から見た日本文化などの観点から日本文化の特質に多角的にアプローチし、理解を深める。	◎	○			○	○			
	比較宗教論		2	2	神道、仏教、儒教、道教、民俗宗教、キリスト教を取り上げ、比較宗教の立場からグローバル社会における日本の宗教について学ぶ。	◎					△			○
	宗教と平和		2	2	平和を求めるはずの宗教同士がなぜ戦うのか。グローバル社会におけるテロや戦争について、宗教の視点から、平和思想について学ぶ。		◎					△		○
	国際環境論		2	2	産業革命以降の経済的発展と人口の急激な増加は、複雑で多様な世界における地球環境問題として人類のあり方に再考を迫っている。そのような地球環境の現状と変動のプロセスを明らかにする。							◎	○	
学科基幹科目	国際関係論		2	2	冷戦以前の時代と、ポスト冷戦からの時代に分け、国際関係論で用いられる基本的な思考軸を提示し、国際関係論の理論が、どのように事象分析に用いられるのかを学びながら、現在の国際社会を理解する。	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
	国際協力論		2	2	世界における格差・貧困、南北問題、グローバリゼーション、自分との関わりに触れ、国際協力の必要性を考える。国連、日本政府、民間団体による国際協力を考察する。以上の検討を通じ、国際協力の現状、意義、課題を明らかにする。国際社会の一員として国際理解を深め、国際協力に参加するための基礎的な知識を身に付ける。		○	○	◎	○	◎	△		
	国際文化支援論		2	2	地域間の歴史的かつ多様な交流、相互関係、文化摩擦等、学際的な状況把握と評価から、従来の国境概念を越えた文化的交流の軌跡を理解し、新鮮な地理感覚を醸成することが出来る。	△	○			○	○			
	開発社会経済論		2	2	国際社会と日本の読み替え科目である。国際社会における日本の地位、日本の協力のあり方を政府、民間の立場から考えていく。日本は国際的な地位は下がったものの、国内的に先進国意識を持ち、国際協力においても、先導的な役割を担うように国民からの期待が大きい。そうした日本と国際関係について、検討する。			△	△			△	△	△
	文化交流論		2	2	多様な地域を結ぶ文化の交流を、多文化理解や異文化の尊重という本来の道筋として実現するために必要な文化定義や交流の意味を考察し、多文化交流・接触の実情を学習出来る。	△	△			○	○			
	国際社会学		2	2	私たちは日々、外国製の商品を使い、外国人とコミュニケーションをし、外国文化を体験することが当たり前になっている。ところで、これらはなぜ国境を越えてやってきたのだろうか。国際社会学では、学生がヒト・モノ・カネ、文化や情報などをトピックごとに取り上げ、グローバリゼーションの背景や社会的影響を検討する。	◎				◎	◎			△
	マイノリティ論		2	2	社会的少数者をマイノリティととらえ、何がマイノリティたらしめるのかについてを、様々な国際的問題において、人権侵害をメルクマールにして考察する。	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
	ジェンダー論		2	2	「男性は外で仕事をし、女性は家庭を守る」といった性別にもとづく役割分業を聞くことがある。ところで、性にもとづく役割分業は、「正しく」て「当たり前」のこののだろうか。ジェンダー論では、学生が専業主婦や家事・育児・介護、生殖医療、グローバル化といった社会現象をジェンダーの視点から解説する。	◎				◎	○			△
	国際移民論		2	2	国境を越えたヒトの移動がなぜ発生するのか。ヒトが国境を越えて移動すると、社会にどのような影響がみられるのか。国際移民論では、学生が国際移動のメカニズムとその影響を学ぶ。前半で国際移動の歴史と戦後の国際移動の形態の多様化を検討し、後半では国際移動を形づくるさまざまな社会制度に焦点を当てる。	◎				◎	◎			△
	文化変容論		2	2	個人の移動が、文化にどのような変化を起こすのかを、土着化による文化変容を観察することによって考察する。文化変容が、どのような環境で、何を条件におこっていくのかを分析する。	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
	日欧交流史		2	3	「大航海時代」をリードしたスペイン・ポルトガル、およびその後近代化を推進するオランダ・イギリス・フランス等西欧諸国と、アジアに位置する日本・日本人の、交流と相互影響の歴史を考察・理解する。	◎				△	○	○		○





2019年度適用カリキュラム情報

ディプロマ・ポリシー	【知識・技能】	①国際協力を学習する前提として、日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身に付けることができる。
	【思考力・判断力・表現力】	②国際社会、とりわけ発展途上国における政治的・社会的・文化的対立の構造を理解し、その解決のための行動のあり方を考察し、また実践することができる。 ③多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	【主体性・多様性・協働性】	④共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けることができる。 ⑤多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。 ⑥国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際協力・支援活動に参画することができる。 ⑦「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性とそのための実践力を学ぶことができる。

分野	新科目名	単位数		科目概要(*1)	カリキュラム・マップ							AL (*2)		
		必	選		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
	アジア地域研究2		2	2	東南アジアの一国、フィリピンに焦点をあて、その国から海外に移住した人が極めて多いので、フィリピン人の移住について取り上げる。世界中への海外出稼ぎの例をとりあげる。日本、オーストラリア、中東、アジア(香港)などへの出稼ぎ、移住を取り上げる。出稼ぎ・移住を進める国内事情についても検討を加える予定である。	○	◎				△			
	国際機構論		2	2	国際機構の機能と役割について考察する。国連をはじめ、どのような国際機構が存在し、いかなる取り組みをしているのかを検討する。現在の国際情勢のなかで、国際機構の抱える課題と国際機構に期待される役割について考察する。国際社会の一員として国際理解を深め、国際協力に参加するための基礎的な知識を身に付ける。			○	△	△	○	◎	△	
	国際平和学		2	2	21世紀に入っても世界各地で起きている戦争・紛争・テロはますます激しさを増している。なぜ、このような暴力が起きるのか、具体的な事例をとらえて暴力の構造を明らかにする。さらに、戦争・紛争・テロの予防・解決、平和構築のため、どのような努力がなされているのか、その問題点も含めて考える。	◎	○						△	△
国際文化支援科目	多文化共生社会論		2	2	1970年代後半から日本に移住し、生活する外国人が増え、現在、その数は250万を超えた。外国人居住者の増加に伴い、日本社会は多文化的な社会となった。本講義では多文化社会の成立経緯、現状、多文化共生の理念に基づく施策、諸団体の取り組みを取り上げ、考察する。	○				○				○
	異文化コミュニケーション論		2	2	文化とコミュニケーション、特に、異文化間関係に及ぼすコミュニケーションの要素に焦点を当てる。また、異文化間コミュニケーションの原則を発展応用させ、英語の談話能力を強化をさせることができる。	○		◎				○		
	世界遺産論		2	2	ユネスコは、人類が共有する財産であり未来へと継承されるべきものとして世界遺産を認定し、これらの保全を喚起している。この認識は人間文化の地域性と多様性を考察するに際して不可欠のものである。具体例を紹介し世界遺産を学ぶ。日本と世界の文化・歴史・社会を学び、グローバル社会と多文化を理解する。	◎	○	△	◎	◎	○		△	
	地域発展論		2	2	現在の国際協力は、経済発展を主たる目的として実施されてきた。しかし急速な経済発展は、環境破壊や大量消費など負の影響もたらし、人間開発、社会開発など新たなアプローチがとられるようになっていく。地域発展論では、開発、豊かさの意味を再考し、どのような取り組みが実施されてきたかを学ぶ。			◎		○			△	
	多文化教育論		2	2	今日のグローバル化、ボーダーレス化が進む多文化社会における共生への教育(多文化教育あるいは異文化間教育)の実態と課題について考察し理解を深める。	○				○	○		○	○
	国際福祉論		2	2	国際福祉論では、世界の福祉の現状と課題を考える。まずは国際福祉の理論を概観する。続いて福祉的な課題をトピックごとに取り上げ、その問題の特徴や背景を講じる。今後の国際福祉の課題と方向性をまとめ、分析する。学生は国際的な福祉問題の特徴を把握し、その解決策を探っていく。国際福祉協力に参加するための知識を深める。			△		○	◎	◎	△	
	NPO・NGO論		2	2	国際化、グローバル化がますます進展する現在、貧困、開発、環境、人権、紛争、労働、女性、子どもなどは、一国内にとどまらない地球的問題である。国家や企業の利益に縛られず、広く社会のために問題解決に取り組む存在として注目されるNPO(非営利組織)やNGO(非政府組織)の役割と課題を考える。	△	◎					○		
	国際人権論		2	2	すべての人々が平等であることが望ましいとされるなか、決して平等な立場に置かれていない人々が数多くいる。国際人権論では、学生が人権保護の歴史とその国内的・国際的な保護のしくみを概観し、つづいて生命・女性・子ども・先住民といったトピックごとに、問題の所在と解決策を具体的に考える。	◎				○	○			△
	比較文化・社会論1		2	2	ヨーロッパの文化・社会と日本の文化・社会のあり方を比較考察する。異文化に向き合い、自文化を再認識する過程で批判的かつ複合的な世界観を学ぶ。	◎	◎			○	○	○	△	
	比較文化・社会論2		2	2	本科目では、西洋社会と日本社会の表層的な比較などはしない。テーマは、今日世界を席巻している西洋近代科学文明の淵源と特質を探ることである。ここにこそ本質的比較論がある。	◎	○			○				

